

書

寫

福田大学書道部

第一回機南誌

自刻印集



田 鍋



安 河 内



上 山



江 頭



西



石 橋

青葉薫る時節となつた。野にでてみれば鳥が啼き、紅や白のバラの花が美しく、乱れ咲いている。

驚いたことに我が書道会ができてかれこれ四ヶ年の歳月が夢のように流れていきます。

今や我福大書道部は健全な前進の一途をたどつていると我々自負しているのですが、何につけても今日までの先輩諸氏の御尽力の賜であると深く感謝致しております。

さて本年もまた、新学期が始まると共に我が部も多くの新入生諸君を迎えた。

「おお!! 臨地を慕いて集まつたエネルギーな若者達の潑刺としたその姿の何と頼もしくみえることか!!」  
折々、人々は皆それぞれ神の偉大さを讃える。

「諸君!!」若者たる者が今日の日のこの若さと、この情熱を誇らずして何としよう。そうだとも、大空にはばたく荒鷲のように讃うべき神を信じてこの誇るべき若さと情熱の縦てを皆と一諾に惜しみなく書にぶちまけることができたとしたら、どんなに素晴らしかろう!!と。

君はそう思わないか。

# 目次

巻頭言

新入部員諸君を迎えて

部長古田龍男

1

新入部員に告ぐ

幹事田鍋義邦

5

雑草の如く伸びゆく姿へ

(副幹事) 上山真輝

8

書心会について

書心会事務局長

11

大学生活

四年

堀川益二郎  
西隆義

13

君はすでに連盟員

四年

安河内克行

15

赤木先生に思うこと

商学部三年 村上恵子

17

連盟展をふりかえって

経済学部二年 渡辺正道

19

新入生歓迎会

法学部三年 渡辺和男

22

ピクニツク

商学部三年 萩原義夫

24

春季合宿の意義

法学部二年大塚忠則

26

給料日の不安

商学部二年森修二

27

回顧録

法学部二年大塚忠則

29

ソフトボール大会

商学部三年平川興

31

友情に因して

商学部二年大野憲俊

33

役員横顔

四年 木脇、西、安河内

34

書についての漫談

(拔萃)高村光太郎

37

編集後記

42

間雖無絲竹管絃

盛一觴一咏亦足

暢敘幽情是日也

元も美ノカの子供達を大ウリます。キソ一の文明論に「パリイは

石橋健吾刻

問事無終夜管姤

龍男  
ここに新たなる書道部員諸君をに出してまいりてな  
迎へ、心から歓迎の意を表します。必ずいずれかの部  
。そして諸君に対して私の意見に入るといふ事があります。

て  
迎へて  
龍男  
諸君  
田  
諸部長  
古

員部  
書道部  
新書

ここに新たなる書道部員諸君を出しておりましたが、まず、ヤカまし  
迎へ、心から歓迎の意を表します。必ずいづれかの部  
。そして諸君に対して私の意見なに入るといふ事があります。  
り希望なりを申し述べたいと思ひ、そこで私は、諸君は書道部員になら  
れますのでありますから、書道といふも

本学の書道部はまだ数年の歴史の  
しかありませんが、急速に世帯も  
大ざくなり、又斯界に於いて確固  
が古い東洋文化の結晶であると同  
たる權威をましました。本当に先  
輩の最も先端的に新しい文化の  
努力の賜であります。どうか諸君  
もこの部といふ事でもあります。そ  
して書道の練  
の発展につとめ、同時に満喫して  
下さい。習を通を通じてこの最も古  
く最も新しい部活動は、学園での  
人間的な樂しみの、い香りの高い  
文化的なものか、諸君の  
言なわち人間性をつくる場であり  
ます。部体質改造をして諸君の心  
や顔や挙措動  
活動のない学生生活はいかに乾枯  
びたもの作に乗り移るといふ事  
であります。これは私の過去の学  
生生活、最も新しいものは最も古  
いものから  
活のまた長い教壇生活の体験から  
きた信念生れる、といふ言葉は古  
今の名言であ  
ります。私も幾人かの子供達を大  
学ります。ギソウの文明論に「パ  
リ」は

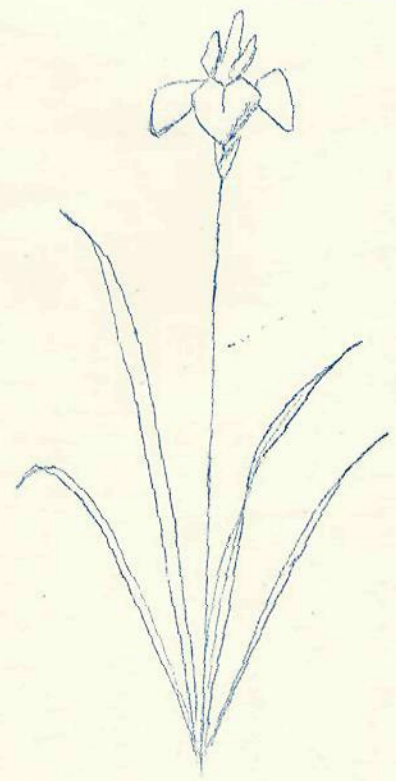


世界の文明の坵場である。いかなる世界のは歓迎される豊かな人間性を創造し、又古いものも、ひとたびこの坵場に入ると新らしい想い出となる事と思ひます。

しい生命力を取り戻し最も新しいものとして世界に向いて拡がって行く。無類の愚筆であります。敬壇で黒板に言葉があります。パリイが文化の中心と向へば文字が詭めぬと文句を言われ、料せられる所以も実は古いものに対する深手紙を書こうとすれば自分の愚筆に愛い研究からきている事は一般に認められて想が過ぎます。しかし、そうであれば、いるところでもあります。私が諸君に希望しこそ一層諸君の精進を切望する次第であります。専ら、このように書道を通じて最も新ありす。

しいものを創造するといふ熱意を誇りを以つて研鑑に努められたといふ事であります。知人への手紙や感想を達筆を似て書くといふ日常は実に素晴らしいものであります。

又展示会で諸君の美事な出品を鑑るとま出品をした諸君の存在が大きなものと思われます。研鑑を共にしてこのような日常を



-5-  
新入部員  
幹事 田鍋義邦

毎日が苦しい練習にみる。  
一回の練習に二百字を書き分けたいと

出品をした諸君の存在が大きなものと思われ  
れます。研鑑を共にしてこのような日常を

### 新入部員に告ぐ

幹事 田鍋義邦

本年は三十三名の新入部員を迎え福  
大書道部は六十三名の部員でもって構成  
され近年益々発展してきた事は誠に喜ば  
しい事である。「諸君が書道部部員として  
誇りを持ちたまえ。そしてサークル活  
動に加入して争を喜び給え。」私はこ  
の争を諸君に敢えて要望する。

福大書道部は書道部会とペン習字部会  
の両部会が存在し、昭和三十六年部発足  
以来の両部会編成である。書道部会は赤  
木先生を御迎え、今年で三年目である。  
その間書技の向上は目覚ましいものが見ら  
れ、昨年に於いては具展に二名もの入選  
者を出し、近年益々素晴らしい成果が生  
み出されつつあるのである。書道は毎日

毎日が苦しい練習にある。

「一回の練習に七百字を書きなさい。」と  
云われ、これを五字書きの半紙になおす  
と、百四十枚必要とし、我々は少々の時  
間ではこの百四十枚は書けないものだろ  
う。我々はこの地道な練習こそ書道部会  
に入つた最大の収穫であり、誇りとすべ  
き態度ではないかと信ずるのである。

又ペン習字部会は未だ他大学にこの存在  
をみない福大独自のものである。「か  
し今やペン習字の愛好者は全国的に増加を  
み、今年に到つてはその必要性に伴い、  
三月に第一回全国ペン習字検定試験が開  
催されるようになったのである。

「か」我々ペン習字部会は他大学に、  
この存在をみないだけに、ペン習字文化  
の普及、という面で、これから七、八年は

多大の努力を必要とされる。これ全て現在の部員の努力にかかっているのであり、これから発展向上して行かねばならない立場に立たされている。このように我々は大きな誇りと使命をもち邁進していることを自覚しなければならぬ。我々は書道部に入っているのである。従つてそこには私の私生活と部生活との間に鋭い争いが生じ、しかも優先されなければならぬのは書道部の方であらう。

W.T. Thomas

次のように云っている。「不適応女兒」の中で振舞つて、引つぱつたり、ちびつたり、こね廻したり、ねじつたり、ウロウロしたりし始め、と、両親は言葉その他の台詞やおしつけを通して状況を規定し始める。静かにしなさい。ちやんとお坐りな

るのである。部に対してあらゆる要求を満

た事が出来ない。又他の多くの部員も同

さい。鼻をかみなさい。顔を洗いなさい。ママの云う事を聞きなさい。妹と仲よくしなさい。等々……。子供の欲求や活動は家庭から示される色々の規定によつて遊び友達によつて学校に於いて、書物を読む事に於いて、日常の色々な、ほめ言葉や非難の言葉その他の台詞によつて禁止されはじめ、社会の一員として成長するに従い社会のおきてを学んでいくのである。さて我々も社会に対してこのやうな小供にならう。そして社会を学ぼう。我々は一社会人として生きてゆくために、色々の規定に基いて行かねばならない必然性があるのでないか。にもかかわらず、私の私生活と部生活間に多くの争いがあり、常に部優先を考えながらも、私

を忘れられぬ、事があつた。オレは、この事と信じなければならぬ。オレは、この事を良く知つてゐるのである。しかし現

実に行動しようとする段階になれば、私

たりし始めと、両親は言葉その他の合  
- 四やおしつけを通して状況を規定し始め  
- 五「静かにしなさい。ちやんとお坐りな

ラ- のである。部に対してもあらゆる要求を満  
- 十事が出来ない。又他の多くの部員も同  
様ではないかと思うのである。すなわち  
我々の欲望をどうやって実現すればよい  
のか迷ったり、欲求不満に落ち入ったり  
部に対しても非協力的になったり、あら  
ゆる現象がそこから生じて来るのである  
。我々はここに到つて取るべき態度とし  
て次の事が考えられる。 Herbert A. Blot  
によると、『(一) すでに確立されている行  
動規範に従う。(二) 自分自身の行動の仕方  
を造り出しそれを社会が採用するように  
努力する。(三) 社会から身を引いてしま  
う。(四) 革命をおこすことである。』と云っ  
ている。我々はこの中で最初に感心を持  
たなければならぬのは第二のものであ

ず、私の私生活と部生活向に多くの争い  
があり、常に部優先を考えながらも、私  
を忘れられない事があった。

ると信じなければならぬ。我々はこの  
事を良く知つているのである。しかし現  
実に行動しようとする段階になれば、私  
自身の非力さ弱さが私の前進を防げ、私  
の無力さを暴露しなければならぬの  
ある。しかしこの段階になつて弱さを表  
わすものは若人として、また現代に生き  
る者として一大失格である。我々はフ  
イトを持つ。

現在の書道部は常に前進への途をた  
どってきた。部創立当初、まだ部自身が  
かたまりないうち、福岡学生書道連盟を  
、又九州学生書道連盟を創立し、又書道  
文化の普及の為に西日本高校揮毫大会を  
開催し、西日本地域の書道文化の発展に  
大いに役立っているものである。そして

部内に於いては、昨年には二名もの具展  
 入選者を出すに到つたのである。このよ  
 うに先輩諸氏が残してくれた業績は常に  
 前進とファイトの固まりであつた。ファ  
 イトで引、張られ、ファイトに後押しさ  
 れるのである。これが若人の条件であり  
 書道部部員の条件であると信ずるので  
 ある。



-8-

-9- の植物を想起させる一つの瀬い美しさを  
 と痛感する。

七隈に育つペン習字部力は、自らその

雑草のごとく伸びゆく  
 姿へ 副幹事(ペン習字部会) 上山真輝

美に於いては、それが例え目を欺く百万  
 の造花であつても、名もなき野辺の雑草  
 には抵抗し得ないのではないか。目  
 を奪う豪華絢爛の容姿には躍動する真の  
 生命力がない。それは一つの環境を生き、

ぬく為に要する独自の体をなしているの  
 ではないからだ。即ち一般であり個では  
 ない。私はあらゆる草花の美を否定する  
 ものではない。が、とりわけ木枝すさ  
 ぶ荒野に石を割つて成長する雑草の厳し  
 い美しさにひかれる。しかもあくまで野  
 望を失わず乾いた大地に根ざして冬に  
 耐え雪解けを期して伸びる姿に、  
 一途な思いの書道部員としての熱帯の  
 一帯に育つ「ペン習字」を鑑み、毛筆部  
 門、ペン習字部門と各自両立させ各特質



9-の植物を想起させる一つの激しい美しさを痛感する。

七隈に育つペン習字部力は、自らその伝統を築き上げる個自体であり、その生き方に於いて雑草の如く意欲的であつて、ほいと思ふ。そして現に今、多分に情熱的である事はよろこばしいことである。昭和三十四年六月書道部発足と同時に産声をあげたペン習字部門、難産であつたにかゝり、発足……なるが故に、なめる辛酸もひとお大きかつたことと思ふ。加えて新しいペン習字部門への期待が各方面から寄せられたことと思ふ。

発足以来人格の形成、書道美術の発展向上への寄与、ペン習字文化の普及を目的に部員相互の親睦をはかり意義ある学生生活の一場にうんと願つて来た。

い美しさにひかれる。しかもあくまで野望を失わず乾いた大地に根ざりて冬に耐え雪解けを期して伸びる姿に、熱帯の一道義としてみの「書道」現代必要性を確

一ている「ペン習字」を鑑み、毛筆部門、ペン習字部門と各自両立させ各特質を生かした活動が行なわれべきに。一が同等でなければならぬはずの両部力に高底の差が生じた事は遺憾に思ふ。ペン習字部門に未だ必要欠くべからざるものがあるという事を果して何人が感じだせようか。

大きな精神的支柱……それは依頼心であつてはならない。従順という美名にかけた無批判的な服従の心であつてはならない。ペン習字部門はいにずらに烏合の衆と化してよからうか……一人の盲目はさしずしやす。否しはしは常人より鋭くしかも用意周到である。が千人の盲目と無知は時に一人の犠牲者にとつて

嘲笑の誘因となるのみならず、にまたま  
恐怖すら感ずるまでに危険でもあるのだ。

私達は常に「自由」という言葉のもつ  
魅力に憶れる。一がい多くの場合、私達  
はフランス人の生命を賭けて獲得した自  
由を忘れてゐる。与えられた自由、放  
従の自由」に眞の姿はない。ここにこそ  
ペン習字部門のBackboneと一々の「自由  
性」が不可欠のものとして大きく浮かび  
あがらなければならないと思う。

以上の真から今後のペン習字部門の部  
員一人一人に強く希望したい。すなわち  
「自ら希望し、自ら行動する人間であれ  
」と「ペン習字部門」の名望の輝く日も  
そう遠くはなからう。部員諸君と共に、  
若さあふれるペン習字部門の発展を願ひ

私か今年度の書心会の専ら振を願ひ  
を受けもつてゐるのですが、新しい部員

の諸氏は書心会を、つてりあひの、

昭和三十九年度ペン習字部門  
目的および活動内容

一人格の形成

礼儀正しく

一部生活

練習、合宿、その他

ペン習字文化の普及

福ペ連結成

ペン字検定説明会

福書連展、書写展(文化週間)

部門展、県展(希望者のみ)

書道展(学園祭)、ペン習字検定

その他(ペンのちから月列読書)

一書技の向上  
就任されました。そして今年四月から田

間、二、三、迷、山が二七目の事務室長

「ペン習字部門」の名望の輝く日も  
そう遠くはなからう。部員諸君と共に、  
若さあふれるペン習字部門の発展を願う

書道展(学園祭)ペン習字検定  
その他(ペンのちから)月列読書  
一書技の向上

私が今年度の書心会の事務室長の仕事を  
受けもっているのですが、新しい部員  
の諸氏は書心会といってもなんのことだ  
かわからないでしょう。

期生であるが、  
就任されました。そして今年四月から田  
鍋君に引き継ぎ、私が二代目の事務室長  
の仕事を受け継ぎまして現在に至って  
います。

書道部ができて五年目、部に昇格して  
三年目の浅い年月で今年の飛躍的な部活  
動が出来るのは何といってもこれまでの  
血と汗で育ませてこられた  
先輩のおかげです。

事務室長の仕事というのは一口に言っ  
て、部と書心会、会員との連絡係のよう  
なもので、部活動の全  
部とはゆきかねます  
が、大体のことは通  
信により先輩全員に

この書道部をより一  
層発達させるべく、少  
しでも経済的、精神的に援助して、部と  
の密接な関係を伴って行くつもりではないか  
という方針のもとに一昨年三月書道部  
Bにより、書心会という録目のもとに成  
立致しました。会長に初代書道部幹事の  
柴田一夫先輩、副会長、会計に書道部一

書心会について  
堀川益二郎(書心会事務室長)

連絡をとっています。  
先輩には誠に申しわけありませんが、  
一口にはもう部とは何の関係もない先輩  
達が社会に出られて少い給料をはたいて  
部の為、我々の為と思つて援助してくれ  
ることは、新入生の諸君はともかく、二

柴田一夫先輩、副会長、会計に書道部一

ることは、新入生の諸君はともかく、二



三年生だつてそんなに理解できる人は居ないと思うのです。

書道部が卒業後如何に可愛いものであるか、ある先輩は私にこう言つてくれました。部先活を一年間で、つまり一年生で止めていく人ほど可愛想な人はないと。二年には二年の苦しみがあり、三年には三年の苦しみがある。しかし一年の苦しみが卒業後一番社会に役に立ちかつ一番なつかしいと。

しかるに僕の経験では一年生の一年間によつてその苦しみ、楽しさを通りこした人は必ず四年間、書道部生活を続けるであらうと。

-12- 新入生諸君よ、先輩に甘んじないだけの努力をやつて、尚一層の部発展につく

# 大学生活

四年 西隆義

そうではないか。

最後に書心会会員の氏名を添記します。

才一回卒業生

柴田一夫

吉村哲也

森 正文

才三回卒業生

野田良一

加見正帆

才二回卒業生

松田詔年

松下英樹

佐藤盛孝

原 通幸



ゆるはなせるオヤジさんという感じ。皆さんの悩みなりを御相談下さい。

-12- 新入生諸君よ、先輩に甘んじないだけ  
の努力をやつて、尚一層の部発展につく

# 大学生活

四年 西隆 義

新入部員の皆様に対しては、まず一年  
間だけ真面目に部活動に精を出して頂き、  
たいと言いたい。いくら書道部の合宿な  
り、練習場が楽しく、又、良き思い出  
に、良き経験、ためになると力んでみて  
も実際に自らが経験してみない争には、  
良きも悪きも解らないからだ。「百聞は  
一見に如ず」一年間やつた後次に進むべ  
きか否かを決めても遅くはないでしよう

まず部長をほんの少一御紹介しましよ  
う。先日の新入生歓迎コンパ(五月九日)に出  
席されに方は既におわかりの事と思いま  
すが、法学部で高法工を担当されておら

ゆるはなせるオヤジさんという感じ。皆さ  
んの悩みなりを御相談下さい。

書道部創設五年目を迎えていますが、  
初めの二年間、即ち書道部同好会時代の  
頃は田村先生を部長にお迎えしていまし  
た。現在はある程度の軌道に乗つて、書  
技術面に於いても前に比べると見違える  
程の上達をなしているが、当時はあらゆる  
面で苦しく、幼い時代であつた。しか  
し反面それだけ暇であつたともいえる。  
(當時は今の四年が一年生の時) 背のびし  
たのかも知らない。それが現在もある程  
度続いているのかも。その後三年間古田  
先生にら世話頂いてゐる次第です。  
大学に於いては大きく真理の探求、人  
格の形成との二つの課題があるが二者は



何関連してゐると思ふ。前者については  
以上の学門だけを指すのではないと思ふ  
書を追求して行く争もその一つとして  
良いと思ふ。それも一つの生活活として  
立派であらう。その時クラブという一つ  
の協同生活の場を忘れなければならぬと思  
ふ。そこで後者が問題になる。

古田部長がいつかこう言われたのを憶  
へてゐる。「クラブという様な皆が集ま  
つて生活し、研究し合つてゐる関係にあ  
つては（もし）がするとその進む方向は誤  
まゐるかもしれない。しかしそれは  
先輩部長、講師なり第三者が教えるくれ  
るであらう。」皆が一致協力して一つの  
方向に進まねばならない。一人でも横を  
向いてタバコを吸つたり、本をよんだり

してゐたのでは發展は望めない」と。  
これは協同生活団体生活のあり方を指摘  
されたのであらうと思ふ。クラブ生活は  
細い路を縦に並んで手をつないで歩く様  
なもので、中には足の速い人もゐるし、  
遅い人もゐる。しかし皆が歩調を合わせ  
、誰かがころびでもしたら、すぐ起して  
くれる。遂に言うところにある程度の拘  
束もあらう。しかし自分一人でその路を  
歩くと速く歩けるかもしれない。みち草  
でもよかろう、それだけ拘束も受けない  
代りに悪路にくるとなかく通れないこ  
とにならう。そこに団体生活の良さがあ  
ると思ふ。大海へ出る出口はすぐそこで  
ある。今はまだ甘やかされても済む。し  
かし社会へ出る準備も必要である。

君は既に連盟員

四年生、安河内克行

学山本紀彦氏、西南大学上田一氏と本学

原通幸氏（氏は才一期、二期の運営委員）等が

向いマタバコを吸つたり、本をよんだり

### 君は既に連盟員

四年生、安河内克行

書道部入部、心かうお祝いのべると共に  
後四年間書道部を通して、有意義なる学  
生生活を送られん事を希望する。

さて、石橋君より連盟の事について何  
か書いてくれとの事、いざひきうけたも  
の、およそ文才に縁遠い小生にとって  
、諸君に解り易く連盟の事を知らせる事  
は本当に頭が痛いのであるが、こればかりは  
ノーシンでもなおります、原稿メ切り  
もせまり石橋君の顔が原稿用紙に見えて  
きた昨今、ない知恵をしぼりながら連盟  
の事について書く事にする。

福岡学生書道連盟は昭和三十六年五月我

ある。今日まだ甘やかされても済む。一  
かゝ社会へ出る準備も必要である。

が福岡大学が発起材となり、  
学山本紀彦氏、西南大学上田一氏と本学  
原通幸氏（氏は才一期、二期の運営委員  
長を努められ、現在博多高校教諭）等が  
中心となり十連盟を結成した。この連盟  
を作った当時の事は連盟機関誌第三号に  
詳しく原先輩が寄稿されているのでそれ  
を読みたい。ただ当時、連盟加盟大学  
は学大、西南、西南女学院大と本学の四  
大学であったが、現在は加えて福岡女子  
大、純真女子短大、九大の加盟七大学と  
いう多きにいたっている事だけを加えて  
おく。

次に連盟の組織であるが本連盟は運営  
委員会と事務局とで組織され、運営委員  
会が最高議決機関、事務局が執行機関と

して夫々の職務を遂行している。尚御承  
知の事と思うが本学からは事務局に次長  
の田中洋典君、研修兼書酔会事務室長に  
佐野和夫君それと運営委員会の委員長と  
して小生安河内が連盟の世話をしている

連盟の行事は去る五月十六日十九日  
まで行なわれた才三回福岡学生書道連盟  
展、この展覧会は見に行かれた事と思ひ  
ます。六月六日は連盟ダンスパーティー  
がある。この収益で錬成会、ピクニック  
等の資金援助をする。七月二十八日三  
十一日は連盟合錬成会。これは今年で四  
回目であり、才一回目が四倉山野宮訓練  
所、才三回目が栢屋郡猪野千人館で行な  
はれた。今年はまだ場所は未定である。

-17-  
入学生書道部、本学九書連役員として、  
理事平川與重男君と小生安河内が理事長

この錬成会のエピソードは沢山あるが、  
紙面の関係上次にまわす事にしよう。錬  
成会は各大学の同盟と共に練習をし、語  
り、遊び、部の合宿とは異つた楽しさが  
あります。秋はピクニック。一昨年は貸  
切バス二台で日田の亀山公園、昨年は甘  
木丸山公園とハ女の紙上場見学をした。  
十二月には機関誌発刊、これは部室にか  
けているので各自読まれたし。

以上で福書連の概略を簡単にのべたの  
であるが、もう一つ私達は九州学生書道  
連盟の連盟員である。これは加盟十二学  
即ち佐賀大、熊本女子大、鹿児島大、  
崎大、大分大と福書連七学で結成してい  
る連盟であるが、これも又昨年五月本学

も、必ずす他の大学の入生に  
迎えてくれるでしよう。

甲辰 皋月 二十五日記す

回目であり、才一回目が四倉山野營訓練所、才三回目が柏屋郡猪野千人館で行なはれた。今年はまだ場所は未定である。

-17- 大学書道部、本学九書連役員として、理事平川興、亜男君と小生安河内が理事長の大任をおこせつかつてゐる。

最後に福書連機関誌第三号の六頁、福岡学生書道連盟行事執行にあつてゝという記事があるが、これは是非とも新入部員の君達に読んでもらいたい記事である。といふのは小生がいくら詳しく連盟の事は決して理解できるものではなく、又連盟が遠い存在でしかない様になるたろう。

明日の連盟を築くのは諸君の双肩にかつてゐるのです。各大学の書道部員とも連盟を媒介として友達になつて下さい。皆書道を愛する限られた学生です。そこにはたとえ主義主張は異なつたとして

君も、必らず他の大学の人は君を暖かく迎えてくれるでしょう。

甲辰 皋月 二十五日記す

「村上さん。君は赤木先生について何か書いて下さいね」  
私は何を書いて良いか見当がつかず困つてしまつた。そこで目をつぶつて考え、赤木先生がどのような先生で、どんなにすぐれた実力の書家かということだけ

、私自身より皆の方が良く知つてゐることなので（現在ペン習字部内にいる私は他の毛筆部門の人より先生の人柄なりエピソード、その他を知る機会がない。）だから、自分だけが感じたことを書こう

と思った。

昨年五月バスセンターより特急「たけお」で佐賀に日展を見にいった。赤木先生が入選されていた時でした。福岡から離れたことが大学生になるまでに数回もない私は、佐賀といっても福岡から遠く離れた気がして、心細かった。その佐賀日展の赤木先生の作品の前で感じた事は、たどなつかしい気持というか、嬉しかった。全然未地の土地で知っている人に会った様に。心の中で何とも言えぬ安心感がありました。「私はこの先生を知っているんだ」という一種誇りに似たうれしさが胸の中に湧いてきました。そして作品をじっと見ていたけれど

眼もない。だから先生の作品の表装は美しい紺であったことが今だに印象的である。日展にいったでそれだけ覚えて帰った様なものである。後日専門の書家にそのとき話すと笑って「始めは誰もおなじ」と。ずっと見てゆくうちに自然にわかるようになる」とのこと。私は子供みた、だと自分で思った。

その他先生について感じた事は、ある時友達と西南大学に書道展を見に行った時のこと。西新町で広い舗装された道路、ずっと並んで車が駐車していた。ふとその中に「売車」と書いて電話番号のついた紙が貼つてある車が目についた。友達をつついて、「まあ、あの車見て」

19  
しているわネ」と驚ろいた。心の中では

（運転していて恥ずかしくないのかな、

福大の私達はこんな立派な先生に御指

してもらおうことができるの、皆がんば

に似たうれしさが胸の中に湧いてきました。そして作品をじっと見ていたけれど、残念なことには、私は書に付する長切やかり

19-もしスレれば、この車の持ち主(ちやかり)

しているわね」と驚ろいた。心の中では「運転していて恥ずかしくないのかな、」だけこの持ち主(ちやかり)トアイデアがあるなと愉快になつていたら、友達は「これは赤木先生の車よ」と教えてくれた。私はとび上つて笑いたい程でした。実際そうしましたが、さすがに私達の赤木先生だと思ひました。とたんに懐かしくなり、その日は一日中ニヤニヤ笑つていました。赤木先生が「朝日展」に入選されたのもこの頃だったように思います。本当にすばらしい先生です。そして書家たる先生の奥様がとても理解あるやさしい良い方とのこと。先生は本当は「体操の先生」書とはどう考えても全然縁が

の中に「売車」と書いて電話番号のついた紙が貼つてある車が目についた。友ををつついて、「まあ、あの車見て」この

福大の私達はこんな立派な先生に御指導してもらつて、がでできるので皆がんばらねばなりません。

### て、かえりかふを展盟連 二年 渡辺正道

もう数日前のことですが、物思いに耽けりながら筆がぼんやりと書道紙の上を走つていった。すると何かしら字らしいものが出来ていた。自分に納得のゆく字ではないにしても何かと得意のある字が……。これは書字者として大事な筆が人間の体力運動によって白紙の上に何ともいえない字を構成させ完成させる為である。この筆も僕らにとって命の次に大切なものであ



る。しかし僕らの現代社会に於ける筆の扱いは常に乱雑であり、無責任である。けれどもこの筆が書学者の印である僕を福岡大学の書道部に入会させたし又この筆がとりもつ縁で諸作品展覧会や福岡書道連盟展に出品できたのである。特に現在の書道部諸氏と友達になれた事は筆のカである。

-20-

それ故その作品展であるが、自分にとって初めての作品として昨年末の九文連がまっていた。しかしこの時も自分の満足する作品は書けなかった。というよりはむしろ書くことが困難だったのかもしれない。短筆から長筆に切りかえた数ヶ月後の作品でもあった。それでも自分には長筆に対する感が出来たと一人九文連

が終つてから考えたものだった。その結果が今度の連盟展の作品となって現われたといつてはおまげさだがそれでも自分には何かの役に立ったものであることは間違いないと確信している。

「福岡書道連盟」一口にこういふが福岡県内の一流大学の諸氏が出される発表会その中に自分も出品できるといふ知らせは自分自身を幸福感に浸らしめファイトをもたせてくれた。しかし実際は心とマツチ出来ずじまいだった。作品に取りかかってからも満足する作品は書けなかった。又気があせるばかりであった。今まで何度となく期限前あわてて書いた事はあったが今度ほど気が気でなかった事は初めてであった。

出来なかった。それ故自分の悪い癖である「アキラメモード」が漂い始めたが

た。印を打つにも田鍋さんに打たせてしまい今でもすまない気持である。

-20- 月後の作品でもあった。それでも自分には長筆に対する感が出来たと一人九文連

出来なかつた。それ故自分の悪い癖である「アキラメムード」が漂よい始めたが自分からセーブして止めた。しかしそれでも作品は出来なかつた。三年生の石橋くんにも切敷日前に先生の内へ五点ほどもっていったのんでその内から一点選んでもらつた。その為その夜はやはり心配だつた。先生の批評はどの作品もかわりばえのしない作品であり泥くさいしという批評であつた。当時展覧会に於ても赤木先生からよくないと言われた事を自分なりに反省している。そんな作品を出した自分であつたので作品もあまりみたくはなかつた。しかし反面どんな作品と比べているかと気にかつた。やはり他人と比較しなくては気が落ちつかなかつ

た。印を打つにも田鍋さんに打たせてしまいい今でもすまない気持である。当日展覧会場にいった時初めて見て思つた事は誰でも確実に書いている事であり又構成がうまいと言う事であつた。自分には言う資格はないと思うが今頭に残っているものといえればやはり教える程しかない。福大の石橋さんの大胆な強い筆力は他の作品を圧していると思ふ。しかし又他の作品として許斐さん(九大)の作品の構成も良いと思つた。その他西南大の田原さんの作品も自分なりに良いと思つたし、西南大の入達の書道に対する勉強態度は良いと思つた。他の大学の方々の作品も良かったと思つているがあまり記憶に残つてない。しかし自分にと

23 12-  
つて本当に良かったなと思つた事は連盟  
展に於て他の連盟員との接触であつた。  
今まで「井の中の蛙」だった自分に光の  
あたる範囲を広げてくれたし他人の考え  
なり他の色々の事もわかつた。積極的に  
参加しなければいけない事がわかつたこ  
とは有難かつた。それ故積極的な参加は  
自分に勉強になることを新めて認識させ  
られた。

それはそれとして連盟展の初参加とし  
ては自分ではどうにか入並にいけないと思  
つている。だから今後他の大学の入達に  
負けないように頑張らなくてはと思わず  
にはいけない。

### 新入生歓迎会

法学部三年 渡辺和男

陽春五月、かつてドイツの詩人エーナーが  
「美しい五月となれば花々もつぼみほこ  
ろび、ほのぼのと我が胸のうち恋の花ほ  
ころびそめぬ」と詠いあげた五月の好シ  
ーズンだが新入部員の諸君の心境は如何  
なものだろうか。四年間の学園生活或い  
はそれにプラスアルファの時には好連  
にもマイナスマルファアの青春の日々を  
どういう風に計画し、設計するかは諸君  
の自主的な選択と裁量の二つにまかされ  
ている。このまたと訪れる事のない青春  
の日々の学園生活のスケジュールの中に  
自主的な充実したプランクを貫かされよ

諸君の青春は若さとエネルギーを無限に

先輩諸氏にとって何と嬉ぶべきものなの

にはいらぬ。

先輩諸氏にとって何と嬉ぶべきものなの  
であらうか。やがて諸君、二年なり三年  
に進級した時この今の私の心境の変化が  
おわかりになると思う。

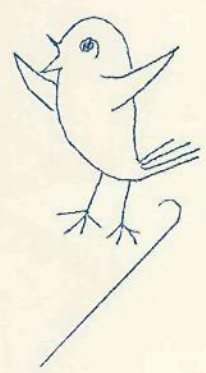
さて恒例の新入部員の歓迎会を去る九日  
幾永で古田部長、原、野田両先輩の御会  
席で行った。尚本学書講師の赤木先生は  
都合上御出度されなくて残念であった。

又新入部員の出席が余り良くなかった事  
も少々寂しかった。だが斎藤、大神両君  
の幹事ぶりは誠に立派でこの紙上を借り  
て感謝の意を表する次第である。それか  
ら新入生の練習状態が良くない。諸君は  
これから一年ないし四年間のカリキュラム  
を作つて入部されたことと思う。だから  
練習には特別の用なき場合は出てこられ  
る事をぜひ望む。

の日々の学園生活のスケジュールの中に  
自主的な充実したプランツを貫ぬかれよ  
うとして我が書道部に入部された事は、  
諸君の青春は若さとエネルギーを無限に

包蔵している。若さこそはどんな困難な  
不幸をも克服できる闘魂の源泉なのであ  
る。この事を胸中にとっかりと抱いて書  
技の向上と自主的な人生設計のプランを  
立案し、その実行を自らの命題として己  
に向つて課したという意識と誇りを以つ  
て練習に励まれる事を望みたい。

以上石橋君から新入部員歓迎コンパにつ  
いての感想を書いてくれとの事だったが  
訓戒みたいな事を書いていさゝか困惑し  
たかと思つたがその点を了承されたい。



心配された天候もピクニック当日には晴れあがり、ピクニックには絶好であった。少し暑すぎたがもしれないが。

クニツク三年夫  
ピクニツク三年夫  
商学部原 萩

福大書道部初めての試みとしてはまず成功の部類に属するであろう。部の行事の一つとして行われこのピクニックも参加者は三十八名約半分にすぎない。これも新入生部員の参加が少なかつたからかと思う。親睦をかねて催されたのであるから新入部員の方々は全員参加してほしかった。

-24-  
話とは変わるがこういう行事には団体行動なるものがつきまとうものである。それにもかかわらず出発時間に教人遅れた者がいたのは残念でしかたがない。今後

注意して欲しいと思う。又解散時が散々だったようだ。というのは「解散」なる言葉が聞けなかったからだ。

ではピクニックのあとを振り返ってみよう。九時三十二分、三十八名を乗せたおんぼろ電車は貝塚駅を発。十時目的地三苫到着。

いちご狩が先かと思つていと後まわし。おわづけをくつた。まずは海辺へ向う。いちご畑の中を。いちご園といえはりっぱな様に思へるが並通の畑と全く変りない。ちよつと期待はずれの感がする。

それでもよいではないか、いちごを取りさえすればよいのだから。五分間泣いただろうか、やがて海辺に着く。塩の匂いがする。海ならでは匂えないものだ。心がやすまる。海はよいものだ。あまが

い。男だから我慢して仲間に加わる。「

25  
こない。

-24- 者がいたのは残念でしかたがない。今後

25 こない。

そのうちバレーがはじまった。浜辺で遊ぶ者もいる。ついには泳ぐ者まで現われた。シーズンにちよつと早いので同様に泳ぐのにもあわてゝいる。腕時計をしまゝ海に入ろうとしたり、靴下をはいたまゝ海に入ろうとする。なかなかユーモアがあつておもしろい。

さて、食事の時間、いくつになつても楽しいもの。さすがみんなおとらしい。ある一つの事に熱中している時にこそ人間のほんとうの姿があるのかもしれない。

？、食後、書道部恒例の歌が始まった。一回は必ず中央に進んで歌をなげればならない。題名はくじで決まる。何が当たるかわからない。歌がにげてな僕には残酷だ。しかし逃げ出すわけにはいかな

いがする。海ならでは匂えないものだ。心がやすまる。海はよいものだ。あまが

い。男だから我慢して仲間に加わる。男ならやつてみるだ。一曲歌い終ると賞品が出る。これが魅力だ。賞品の思いつきもなか／＼良い。賞品が渡されるたびに笑いが起る。エプロンが男性に当たるのも又封筒が男女に当たるのも皮肉なものだ。封筒をもらった人はペン習字の方であつたので一生懸命練習して下さいね。この後はもう書がなくてもおわかりになると思います。

三時、待たたいちご狩り。

三組に別れて畑に入った。入れ物も小さいし、いちごのつづも小さい(僕達の所は)が小さいながらも結構入る。いちごがはみでて両手で落とすまいとしゃかり持っている人もいる。四時、現地にて解散

最後にこの行事の世話をしてくれた渡辺  
広渡両君お疲れ様でした。楽しい一日  
を過ごさせていただきましてありがとうございます。  
ございました。

ピクニックは年に二回位したいと思ひ  
ますが皆さんいかがでしょうか。

### 春季合宿の意義

法学部二年 大塚忠則

春季合宿は夏、秋に次いで一年間の  
最後の合宿である。合宿は最もカが一役  
と上達するものであつて合宿の始と終り  
とでは目に見えて上達が解かる。いつも  
ながら六時の起床は我々にとつてつらい  
ことであるが起床後三時半からのラジオ  
体操は気持ちのよいものである。一日の練  
習時間は約九時間あり一日二日間ば朝起  
きると足が背がこわつて、立つて書く時

時こわつているのを特に感じる。しかし  
合宿も後半になつてくるとそれも少し予  
らいで来た。消燈の前に十五分から二十  
分間ぐらいその日の反省をしたのはたか  
になつた。そして議長を我々の中から毎  
日一人を選んで反省会をし、議長という  
役を経験したことは有益であつた。四日  
目は藤先生がこられて我々ほとんどのも  
のにとつて始めてであり、この合宿で樂  
しみにしてゐた纂刻をした。印には字の  
部分を刻る白文と字の部分を浮きだす赤  
文とがあり、刻る方法はまず紙に自文の  
刻る図案を書き、石の刻る面を紙やすり  
で平らに削り、その面に図案を映してそ  
れから刻るのであるが、刻る時には石を  
切るようにするのではなく、中へ押すよ  
うにして刻るのである。石は柔らかないよ

うだけけれど刀を入れると他の所までこげ

は六時に起きて午前中練習して午後

-26- 習時間は約九時間あり一日二日間は朝起きると足が背がこわって、立って書く時

-27- うだけれど刀を入れると他の所までこけるように心配であるが刻りすぎたりするところに良さがあるのである。みんなの出来上がった印を最後に押して並べて批評し合った。この次の合宿にもてん刻をしたいものである。

一年生は二人一組で毎日風呂の当番で学校の風呂はボイラー式であるので沸きたしたら早いけれども合宿中はよく雨が降り石炭がしめつて燃えつきにくく苦しんだことがあったがよい思い出になる。

五日目のレクリエーションは雨のため予定していたソフトボールは中止になったので合宿場でトランプや囲基部室をかりて囲基をやったりして今日は最後の日でオールナイトであって三時すぎまでトランプや囲基をした。しかしながら次の日

切るようにするのではなく、中へ押すようにして刻るのである。石は柔らかないよ

は六時に起きて午前中練習して午後あかたづけをして合宿を終った。

### 給料日の不安

二年 森修二

明日は給料日だ。一ヶ月のアルバイトのしめくりの日でもあるし又僕が一番うれしい日であつてもよい筈であるが、僕には一つだけ気になる事がある。それは領収書を毎月書かなければならない事である。いくらきれいに書こうと思つてもどうしてもうまく、自分の名前も住所も――今までに何回書いたかわからないし――思うようにはかけないかと思うと何か恥かしいやら悲しいやら、又大学生として高校を出たばかりの女の子でさえ驚くようなみごとな字を書くのにこの俺がこんな、どうみてもお世辞にもうまいといえ



ない字ではといつも涙をのんで、いつも  
のへたな字を披露する結果となる。

このような状態がもう二年以上も続いて  
いるのだ。きれいな字が書きたい。人  
並の字がかけたらなあ、というのが僕の  
望みだ。これまでも何度習字の練習をし  
ようと思つて町の塾へ足を運んで練習日  
とか費用を尋ねに行ったことか。その度  
に夜アルバイトを持つ僕には無理だとい  
う事が身にしみて感じられる。そうこう  
するうちに二年になった。各クラブは新  
入部員の募集を開始した。僕も色々  
のほり紙をみた。するとその中の一枚に  
目が吸いつけられた。書道部というポス  
ターだ。僕は「よおし毛筆でもやればペ  
ン習字の方もうまくなるだろう」と思つて

「お願いします」と受付の人に言ったら  
毛筆ですかペンですか」と聞かれて僕は  
嬉しかった。まさかペン習字だけあるな  
どとは思つていなかったからだ。

自動車の試験に落ちた。もう四時まで  
あまり時間が無い。しかし「オ一回目の  
練習ぐらいは参加したい」と思ったので  
急いでバスに乗つて学校へ来た。練習は  
始まったばかりだった。今日の練習はか  
名だ。西洋紙に大きな字で一生懸命に一  
字一字丁寧に手本をみながら書いた。練  
習は四時から五時までになつてゐるが一  
時間はずぐにたつてしまった。練習が終  
つた後何だかとても気分がスカツとして  
気持ちよかつた。この時に「よおし、や  
るぞ」という気持ちがむらむらと湧いてき

習字の方もうまくなるだろうと思つて

-29- た。この日から一日に一回は五十音全部を練習しなければ寝られないようになってた。

今日は先輩の添削でたくさんの「まる印」をもらった。とてもうれしかった。やっぱり毎日練習したかいがあつたなあと思つた。これからもやるぞと心の中で誓つた。

暇な時間に皆でソフトボールをする事もソフトボール大会の応援も、先日のピクニックも久し振りに味わう気分。僕は本当に書道部に入ってよかつたと思う。だがはたしていつきれいな「領収書」が書けるようになるのだろうかという心配はまだ消えない。

気がよかつた。この時に「よおし、やるぞ」という気がむらむらと湧いてき

### 回顧録

二年法学部

大塚忠則

四月六日

役員会

一年の計画・春季合宿予定表作成

四月七日

春季合宿

連盟展の作品作成を目標に一日十時間練習。ペン習字は検定試験への基礎

四月十四日

（十九日）

福岡美術協会展

於岩田屋

赤木石掃先生御出品

四月二十四日

部員募券集

五月一日

役員会、年間計画に因して

五月二日

部員総会

五月四日

新入部員練習開始

五月八日

学文会主催新入生歓迎会

於高塔山

五月九日

書道部新入生歓迎コンパ

於幾永

五月十四日

役員会

五月十六日

（十九日）福岡学生書道連盟

展、

於新天会館

五月十七日 学術文化部主催 ソフト大会

書道部、珠算部に惜敗

五月二十日 書道部新入部員歓迎ヒクニク

いちご狩り 於三苦

五月二十三日〜二十四日 紅露会展

於天神ビル九電サビ  
スセンター

五月二十一日〜二十六日 郡の津書芸展

於新天会館

五月二十八日 役員会

五月三十日 部員総会

五月三十日〜六月二日

学大開学祭

六月一日〜六月三日

オム西南展

六月六日 福岡学生書道連盟OB主催

タンスパーティー

於月世界



五月十七日曇 今日は学術文

ても彼の動作はビートルズの歌ではない

# ソフトボール大会

商学部3年 平川興亜男

五月十七日曇、今日は学術文化部会主催のソフトボール大会である。オリンピックの歌ではないが、この日のためにみがいた技と練習、遊び？の成果を発揮する日である。去年の秋季ソフトボール大会では第二回戦でおしくも珠算部に敗れ部室に賞状を飾ることができなかつたが今季は優勝して賞状の文字を部員全部で一字ずつかきたいと思つて来た。ここで我が書道部のメンバーを簡単に紹介する。一番は小型ピートルズの広渡君だ、彼は若い時代に野球をやつていたそうで、打つても守

ても彼の動作はピートルズの歌ではないが、「抱きしめたい」といえるくらいまい。西鉄でいうと柳木級だ。二番はセンターの大神君だ。彼は自分と同じ花畑中学校の出身で我が母校のモットーである「若さと純心」が売り物の男である。高倉級だ。三番はファーストの渡辺君というより回転焼の好きな男といつた方が早いかも知れない。あつちの方に相当する男だ。ウィルソン級だ。四番はサードの自分である。西鉄では田中久寿男というが稲尾が好きだ。五番はショートの田中君だ。彼の打撃はいいが、ファイトがたらん。ロク級だ。六番はピッチャーの安河内さんだ。自分も部では相当ソフトボールは好きな方だが、碎石先生にはかたれない。ソフト気狂いとまではいわなく



でも、のぼせぐらいはいえるかもーれな  
 い。○○級。七番は政田くくく、武田薬  
 品と同姓の武田君だ。彼はバレーはうま  
 いが、ソフトはバレーほどではない。自  
 分とのつきあいは古い。八番はセカンド  
 の佐野君だ。体と力だけはプロ野球なみ  
 だが動作の方は……。九番はモヤツチ  
 ヤーの江頭君だ。彼は肩がいい。ファイ  
 トがある。顔もいいし、西鉄ならサーズ  
 め和田級だ。他人選手として西さん、萩  
 原君、吉田君、上山君などがいた。オ一  
 回試合の相手は囲基部である。オ一試合  
 は軽くさばいて大差で勝った。オニ試合  
 は珠算部だ。だいたいの前の試合とは雰囲  
 気が違う。ファイトがある。試合は惜し  
 くも五対四で敗れた。試合の経過はくや  
 ーのて書かないことにする。何の試合

友情に關して

でもそうであるが敗れて考えることはあ  
 の時あの球をならうより、この球をなら  
 って打てば良かった。あの時あーいう風  
 に守っていたらとツトにならなかつただ  
 ろうというふうにあの時のことがむしよ  
 うに頭に浮かんでくる。我々は若い、純  
 真だ、素直だ、育ちがいい、何故ならこ  
 んなことは昼食後にすぐ忘れちゃう。  
~~昼食後にはすぐ忘れちゃう。~~ 昼食はハン  
 バークニ個づつ。最後に部員一同閉会式  
 に出たことは感じがよくあった。応援に来  
 てくれた人々に感謝したい。応援に来る  
 のは部員としては当然のことだが、それ  
 さえ出来ないものもある。残念なことだ  
 。秋季のソフトボール大会が待ちどうし  
 い。優勝して理想の賞状が書きたい。

なる場合も可能と思う。それは学校に於

くも五対四で敗れた。試合の経過はくわしいので書かないことにする。何の試合

### 友情に關して

#### 商学部二年

#### 大野憲俊

私達学生に於て友人關係というものは、仲間の付き合いから起こるものがほとんどで、したがつて大部分の友情が親しみ合いの上での友情である。自分達がお互いに友人同志であると思つても、それは瞬間的なものである。それであるから学生々活や部活動や日常生活の会話に見られる「貴様、俺と馴れく／＼い話し方」のように、自分の思つた事を何の心配もなしに話す事ができる。しかしながら我々学生は感情の激しい年頃であつて、一件喧嘩にも発展しないとも限らない。ここで我々が友人關係を持ちたい時はいか

い。優勝して理想の賞状が書きたい。

なる場合も可能と思う。それは学校に於ける講義の詩尙、部の活動に於ける場合、こんな場合の友情では、嬉しい時、傷ついた時でさえも、又特に復つた場合でも、その場合の彼らの言葉が痛いほど身にしみるだろう。仮りに好きな異性を友に批評させると、彼は才三者の立場で批評してくれる、そういう友人との付き合いこそ学生生活を楽しくするものである。しかし彼は私達をよく知り、何もかも話せる人、苦しみ、喜びを共に分つて味わつてくれる人ではなく、我々の苦しみ、我々の喜びを共に味つてゐるようを感じたならば、彼は我々に調子を合わせているにすぎないから、だからといって友情を示しているのに変りはないが私達の

友情が決して私達の苦しみ、喜びを共に  
 味わってくれる人といったようなものば  
 かりでないといふたのである。このよ  
 うな友情は学生生活に於てきつとこわれ  
 ると思う。その原因というものはちよつ  
 とした場合で彼を信用しているあまり、

私達のいつた事を実行しなかつた場合、  
 或いは彼が気にさわる事を言つただけで  
 それ以来僕達が彼を見る眼が違つてくる  
 。このような友情を得る場合は非常に長  
 い時間を要すると思うが、学生に於て友  
 情というものは仲間の付き合いから生じて  
 くるものが多く、こわれる場合は容易で  
 短いものである。その時が仲間の付けい  
 が終る日であると思う。それは遠くかけ  
 離れた付き合いが薄れ、顔を合わさな

らと思う。真の友情というものはよく一  
 口に誰もが口にするほど信頼感と美しさ  
 に満ちくゝているもので、私達は今日こ  
 のような友情を結ぶべく努力すべきだと  
 思う。

役員横顔

幹事 田鍋義邦

大福もちを思わせるあの容姿で純情形の  
 好青年。彼のどこにあの素晴らしい決断力  
 と行動力が秘められているのかは解らな  
 いが、物事をスカツとかたづけけるのは  
 みていて気持が良い。書道部ゴリウ

副幹事 堀川益二郎

熊本は下益城郡の産、熊本をほめれば何  
 事も喜んで相談に乗つてくれるから、強

が終る日であると思う。それは遠くかけ離れた付き合いが薄れ、顔を合わさないうか

い。工学部でありながら、いくら遅くなくとも練習に来る、その態度にはいつもながら頭がさがる。書道部の世話役 書道部ポケットモンキー

### 副幹事 上山真輝

両副幹事の類似点は顔の色が焼けている事であって相違点は顔が丸いのと長いのである。長いのがペンの世話人上山真輝ペン向上の為には何事もいとほしい彼七月にはペン習字部門初の学外展を行ない、もつか彼はその方面にもいそがしいとか、御盛会を祈る。書道部日本猿。

### 会計 平川興 亜男

めずらしい名前であるが、ソフトムードの彼、まじめな性格であり九成宮が得意というのもなるほどと思う。練習もまじ

熊本は下益城郡の産、熊本をほめれば何事も喜んで相談に乗ってくれるから強

めであるが、ソフトボールはなおまじめ。佐藤、下司、杉下諸先輩の伝統は今なおうけつがれている。先輩よ御安心あれ 書道部手ながざる。

### 副会計 萩原義夫

大変まじめな彼。三川会計の良き相談相手となり部の金庫を固くとざし、集金時の彼はどことなく威厳があるから恐ろしい。めがねざる

### 庶務 石橋健吾

彼の書の書きぶりは、本当に見ていて気持ちが良い。役員会では、幹事、副幹事の良き相談相手で、機関誌の刊にあたって原稿募集をしたところ、予想外の原稿が寄せられたのも彼の人徳か。書道部マン トヒヒ。



渉外 田中洋典

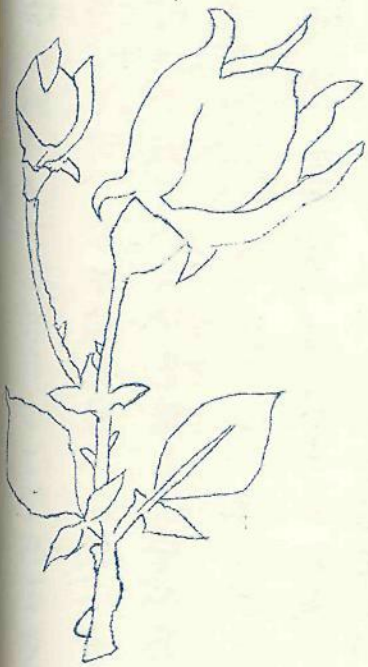
連盟事務局員がこの渉外に当たるのであるが、いわば内閣の外務大臣。部に直結した連盟ということに力を入れてゐる彼。連盟錬成会での彼の活躍を今から楽しみにしてゐる。事務局次長、書道部ケンパングー。

渉外 佐野和夫

同じく事務局で研修兼書酔会の仕事をしている。巨体に似合わず大変デリケートな性格も兼ねそなえている。君達二人は各大学との接触が多く、全て君達の行動が福大書道部の名誉か不名誉かになる。連盟に於ける君達の尚一層の精進を祈る。書道部オランウータン。

以上で役員紹介は終るのであるが勝

手を事ばかり書いた事、平にお許し下さい。君達八名が今年一年間、部の執行を担当するのであるが、あくまでも部員の意見を良く聞き、役員で十分話し合い、立派な書道部を築いて下さい。くだらぬ横顔を書いたのは君達七隈猿の飼育係木脇、西、安河内の後十ヶ月もすれば部から追い出されるやっかいな人間です。



書道部オランウータン。

以上で役員の紹介は終るのであるが勝

# 書についての漫談

(三玄社発行書道講座より抜粋)

——高村光太郎——

私の小学校低学年頃の習字の手本は例の細長い折手本で「いろは」から始まっていた。筆者は菱湖であつたように記憶する。菱湖の字はむしろ瘦せた筆法であつたが、ひどい癖はなかつた。私は習字が好きだったので、机の片隅にはめこんである壺に先生が墨汁をついでくれるその匂いをいまだにおぼえている。半紙一帖とちの昔さからの手習草紙がまつ黒になつてとるまで、なまぐつた。その草紙は学校の前の学用品の店に持ってゆくと、足し前、すこしで新しい半紙一帖と、りかえてくれた。半紙は立派な和紙であつたが、途中から「改良半紙」というま

つ白な紙がでてきて店では、この方をしきりとすすめた。妙にすすべすべしているのが厭で私は古い方の和紙をいつも使つた。ついでに書くと、その頃の算術の式は皆石板へ石筆で書いて学んだ。石板を持つて歩いたものだが、後に紙石板という厚い紙製のが出来て軽くなつた。私はこれでさかんに武者絵を画いたり消したりして遊んだ。甲骨をつけた加藤清正、シホーテン、但馬守などが得意だつた。小学校高学年頃になると手本が変わつて筆者は西川春洞になつたようである。これはむしろ太い方の字、少々癖があつたがやはり小学生には立派にみえた。父の内弟子の中に増田光城というインテリがいて書画がうまかつたので、これと相



談して級友の字や画を毎日集めて綴り本を

つくり廻覧した。その後美術学校の予備

校あたりから多田親愛のカナ文字、つづ

いて小野篤堂という風に習ったが、あま

り俗っぽいので程なく止した。「明星」

時代には友人の水野蝶郎（葉舟）が字が

うまいのでそれにつり込まれてしまりに

字を習ったが今考えるとよい指導者がい

なかつた。美術学校では小杉温部が「書

学」というものを講義していたが、これ

は主として日本古来の国学畑の書の変遷

史であつた。世上では六朝書が大いに説

がれ出しま、私も井上雲山という人の六

朝書に因する本を案内にして神田の古本

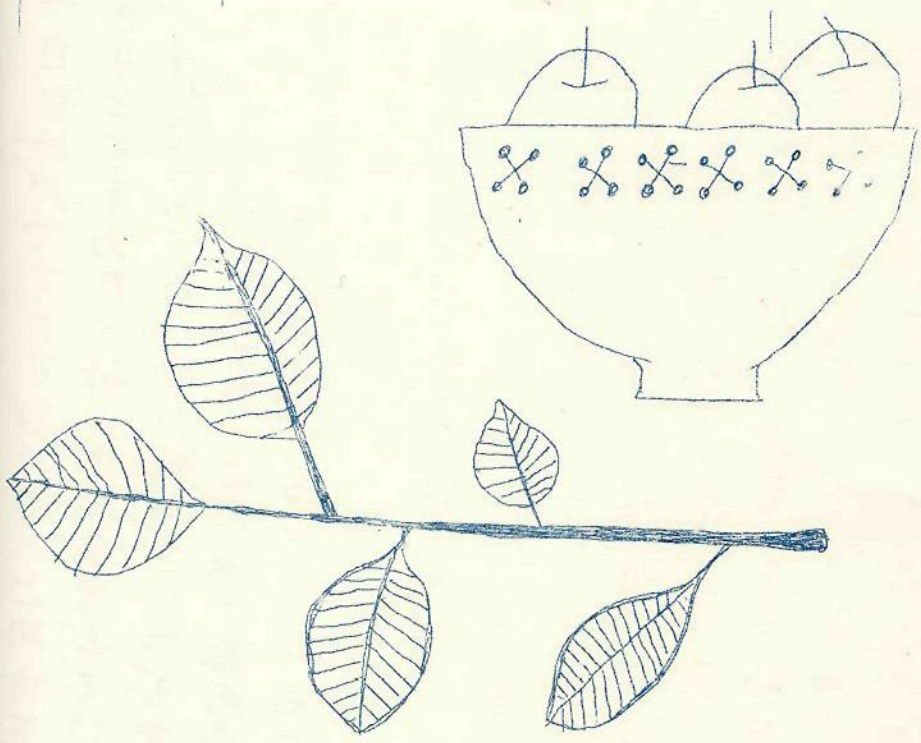
屋で碑碣拓本の複製本を買つたりした。

六朝書の主唱者、中村不折や碧梧桐の書

にはさつぱり感じせぬ、守田寶丹に類す

一律の字を看板や、書物の背や、幅や、額

の字、買へない英語の原書（大学）

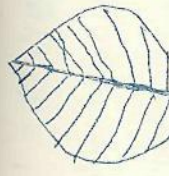


六朝書の主唱者、中村不折や碧梧桐の書にはさつぱり感心せず、守田寶丹に類する字を思つてゐた。

一38

律の字を看板や、書物の背や、障や、や、雲盤や、屏風や、致るところに書き散らしたので、鼻についてうんざりした。草律へゆく途中の温泉宿で碧梧桐の例の石をつんだような字の俳句の短冊を幾十枚か、自慢で見せられたことがある。ここに滞在中に書かれたものだそうぞ主人が珍藏してゐた。地方には時々さういうコレクシヨンがあるものだ。

日本にも、考へてみると、大昔から、実に立派な書家が数多く居た。そしてやはり人のいう通り弘法大師は偉大である。日本風の分子はまだまるではないが、これは大陸本土へ持つていつても見劣りのしない本質的な書の骨格を持つてゐる。むろん羲之の流札だが、たゞの模倣ではなく、書に空海の生活がある。私と學



トにびっしりペンで書き写したものだだったが、それと同じような空海在唐中のノートに過ぎないと思へる。写経の細字まで立派である。いくらぞんざいに書いても字にうま味がある。縮じて空海の書には一通りならぬ舉行があり、恐ろしく強いエネルギーがある。これに比べると、伝教大師の書は同じように立派だが、どこかにしんの弱いところがあり、ひどくお人好しのやっに見える。小野道風も人のいう通りすばらしい。和風の先祖だが、筆のやわらかい割に骨法はつよく、決してめめしくはない。ゆつたりとして迫らず滋味があり、品位が高い。道風といはれ



れるカナ文字を見ると、これがまた心に  
くいほどうまくてシツクた。よほど運動  
神経の統御力があり、比例均衡の空間感  
覚の鋭かつた人と見え、大陸にもないこ  
んな新らしい書を日本につくり出した。

カナ書きの名人は平安朝以来たくさん居  
るが、ともかくカナ書きの美は日本書道

独特のもので、こんなおもしろい自由な  
文字の美は、世界でペルシヤやアラビヤの  
の装飾美の外に雇をならべるものもない

。古来名筆として知られてゐる人達の書  
は皆それそれによいところを持つてゐる  
し、また名も残らず、書いたものも残つ  
てゐないやうな、社会の隅々にゐた人達

らしい事をかいたものも数多くあ  
たに相違ない。書などというものは、実  
に真実の人同そのものあらはれなのだ

から、ことさらに妍を競ふべきものでも  
なく、目立つたお化粧をすべきものでも  
ない。その代り、いくら骨折つても自分  
以上の書はかけない。カナク和流でもエ  
派な書があるし、這子でも卑しい書があ  
る。卑しい根性の出てる書がいちばん  
いやだ。

徳川時代までの坊さんや儒者などには  
驚かす、書をかく人たゐたが、明治にな  
つてからはかうも少い。評判の人はいろ  
いろあるが、真に感心できるものは多く  
ない。坊さんの書がぐつとくだらなくな  
つた。むやみと書きちらしたらしい。天  
才などというのがあるが、まつたくの俗  
字だ。學者にもゐない。政治家にもゐな  
い。軍人にもゐない。書家にもゐない。  
大体、明治という時代が、

に真実の人間そのものあらはれなのだ

時代だったので、その臭みが誰のにもしみついていてゐる。梧竹のような書家はなるほどいいけれども、妙に強引なところがあつて素直でない。その素直でないところからくさみがただよう。副島種臣は抜辭の言をかき俗つけのない字だが、これも時々羽目を外して癖を出し過ぎる。癖が癖と感じられるようになってはもつけない。西郷隆盛も山岡鉄舟も乃木入将も山県有朋もよいとはいへない。例の「此一戦に在リ」は殆ど字ではない。評判の高かつた伊藤博文は小市民趣味にかけてゐて、却て西園寺公の貴族趣味の方がいいし、大徳木堂は筆墨について説くところの方がよくて、実際の書は知友であつたらしい康有為の方がいいようだ。今、書道は一部の新人によつて変革さ

い。軍人にもみない。書家にもみない。大体、明治という時代が、立身と世主

れつつある。書の根源である純粋造型への切り込みが行はれてゐるのであり、画や彫刻のアストラクトの追求と或る地域で出会う形となつてゐるのがおもしろい。これは今日の世界的傾向に同調するものだが、まだ一段落というところまでいつてみない過程に強い興味があり、また不安もあるという感がある。

編集後記

よみがえりの五月、福岡大学書道部も発  
足以来五年目を迎えた。ここに部機関誌  
創刊号の発行ができましたのも、部員皆  
様の御協力の賜と編集員一同、喜んでい  
ます。

機関誌名「荒鷲」は部員の皆様より募  
集しましたものを討議して取り上げさし  
て載せましたが、それは「福岡大学書道  
部カラー」を意味しました。芸術書の表現  
々に思いをはせております。この名のよ  
うに私達はいつまでも若々しくいつまで  
も勇ましく、書の道に励みたいものです。

尚、今回は新入生歓迎という意に基き  
企画、編集致しております。書論を省か  
せて頂きました。以後書論も掲載した  
く思っております。

最後に、審判にあたり、御指導下さい  
ました諸兄弟の皆様、御礼申し上げます  
と共に、今後とも部発展のために御尽力  
下さるようお願いいたします。

荒鷲 創刊号

福岡大学書道部機関誌  
昭和三十九年六月十日発行  
編集発行 福岡大学書道部

編集員

石橋健吾

奥田勝久

大塚忠則

竹内由紀子

福島一恵

自刻印集



堀川



大塚



龍



上山



安河内



佐野

ました諸兄城の...  
と共、今後とも御亮殿のたりに...  
下さるようお願ひします